

昭和九年一月十日於總督府

宇垣總督口演要旨

〔各道農村振興指導主任者打合會席上〕

朝鮮總督府

0259

○繼宮明仁親王殿下御誕生奉祝

開會ノ劈頭ニ當リマシテ謹ンデ

繼宮明仁親王殿下ノ御誕生ヲ各位ト共ニ奉祝
シ併セテ皇室ノ益御繁榮ヲ壽キ奉ル次第デア

リマス

0260

○農村振興運動の經過

農村振興施設に付きましては既往數次に互る道知事會議を始めとし近くは參與官會同、内務産業兩部長打合會等道の幹部級を主とする各種會議を開催し、其の都度本運動の重大性を強調し、其の趣旨方針の徹底と施設の周到を期し、尙昨年三月政務總監通牒を以て經濟更生運動の具體的方策に付委曲示達する所あり、又本府、道、郡島、邑面に互りて系統的に農村振興委員會を設けて各種機關の聯絡協調と、公私施設の統制を圖り、更に屢地方的に指導關係者の講習、打合會を開催する等萬全を期して今日に至つたことは既に各位の了知せらるる所であります。近く本運動の中心施設たる更生指導部落の第二次擴充を實施することに相成りましたので、事柄の極めて重大にして周到を要する關係からして、絶へず本運動に直接し施設運用の中心を爲す各位の會同を煩はして實行上諸般の打合を爲すと共に、既往一年間に於ける體驗に基き、更に施設各般に互りて篤と御協議を致すこととなつた次第であります。

茲に年の始め會議の劈頭に於て、常々朝鮮更生の爲に熱血を注ぐの心境を一にせる各位の壯容に接し所懷の一端を述ぶることを得ましたのは私の深く満足とする所であります。

本運動開始以來、官民の熱誠なる努力と、協力支持に依り、施設の趣旨普く全半島に徹底し民心は頓に作興し官民の親和、協調、内鮮人間の融合提携、生活改善、消費節約、營農改善其の他各般に互り漸次見るべきものあるに至り、殊に本運動の中心施設たる農家更生計畫を樹立し、現に實行中のものは其の數二千二部落、五萬五千四百五十八戸に達し、此の外普通學校卒業生、自作農地創定者等に對しても、本計畫を擴充實行する等着々實績の擧揚に努めつつあるの結果は、隨所に更生の事象勃然として萌し、前途大に光明を認め力強き伸展を爲しつつあることは御同慶に堪えない所であります、此の輝かき希望に燃へて茲に更生指導部落の第二次擴充を企つるに至つたことは一に道知事以下各位の異常の御努力の然らしむる所でありまして衷心感謝に堪えない次第であります。

○農村窮乏の實狀

始政以來各般の施設は年を逐ふて面目を革めつつあることは、統治の大局より見て争ひなき所であります、翻て仔細に之を見直すときは、尙未だ刷新改善を要するものが少なくないのであります。就中最も窮乏を訴へつつある現下の農村に付て之を見ますならば、其の約八割は小作階級に屬する細農を以て占めて居ります此等は過去多年の秕政の結果、

搾取、誅求に苦しめられて來たのでありまして既に其の心境は著しく荒み、所謂醉生夢死奮發心も感激性も消磨し希望も理想も意氣もなく、其の日暮しの悪習に惰し、自ら意識して其の生活に改善工夫をするに謂ふやうなこともなく、全く時代後れの環境に甘んじ年々歳々食糧の不足を訴へ、高利の負債は逐年増嵩するのみならず、收穫時期には債鬼殺倒して、彼等全年の努力も或は借入食糧の返済となり、或は負債利子の償還に充て餘す所なく、春窮即ち端境期に於ては食糧不足し、山野に草根木皮を漁り辛ふじて一家の糊口を浚ぐが如き慘目なる状態であつて、此等は年の豊凶に依り素より一様ではありませんが、其の概数は農家總戸数の四割八分約百二十萬戸に及ぶ年も在つたのであります、換言すれば朝鮮の農民中には過去に追はれ、現在に苦みて、將來を樂むなどは思ひも及ばざるものが多いと申さねばならぬ。

○農村窮乏の恢復困難なりし原因

始政以來此の窮乏を恢復することが容易に出来ざりし原因が奈邊にあるかと申しますれば、一言にして盡せば、農村の大衆が一般に無自覺であるに謂ふここに落付くのであります、更に之を具體的に申しますならば、一般農民が農村の特色、農業の本質、農村人の

理想信念人生觀と謂ふやうな、農村生活の基調となるべき大切な事柄に付ての理解が極めて乏しかつたからであります、之は獨り農村人のみの罪に課すべきものでなく、廣く政治、經濟、學術等に携はる者の認識の缺如も斯くせしめた一半の責を負ふべきであつて、其の窮乏打開の途も亦自ら此等兩方面の覺醒に俟つて之を解決するの必要があるのであります、此の點は御互も深く反省して見る必要が大にあると思ひます。

話が少し横途に入りましたが元に歸つて、此等農民の無自覺は如何なる點に顯れ、如何なる點に禍するに至つたかに付、少しく考察を加へて見るならば、先づ第一に自家の立直し、即ち生活、營農に或種の必要を意識して之が改善工夫を爲すことがない爲に、各種作物に尙幾多增收の餘地を残したまま、餘剩勞力は利用消化の途を講ずることなく捨てたまま、孰れも之を放任して顧みない、其の結果は食糧の不足も補ふことも出來ず、負債の償還は素より利子さへ碌々拂へないのである。更に經濟的打算の觀念に疎い結果として、必要の前には前後の事情も辨へず、極めて無頓着に高利の債務を新に作りて益々其の重壓に苦しみ、自己の立場に不相應なる文化生活の風潮に煽られて自給自足の經濟觀念を弛めたる結果は、交換經濟、貨幣經濟が不自然の状態に迄農村に喰ひ込んで來て、農村社會組織の特色は驚くべき勢を以て破壊に導かれつつあつたのであります、朝鮮の農村は大様以上

の如き原因を胚胎して積年の疲弊に更に一段の拍車を加ふるが如き、状態に至つたのであります。

六

○農村救済の必要

斯る窮乏の中に多数の農民が不安なる生活を續けて居るから、春窮期には食を山野の草根木皮に求むるが如きことにもなるのであろうが、如何に之が舊來の陋習であり、自他共に怪まざる傳統的農村の姿でありしとは申しながら、誠に氣毒千萬、實に一視同仁にまします陛下の赤子を永く此の状態に置くことは忍びないのであります、此の多数の恵ぐまれざる農民の存在は、正しく朝鮮統治の一大憂患であつて其の生活の安定と向上とを放任しては朝鮮の開発は斷じて望み得ないのであります、之が對策は統治上最先最急の要諦であり、且其の根幹を成すものと信ずるのであります、始政以來二十有五年、其の間歴代の統治者が、此等大衆の生活に同情し、苦心して過去幾多の施設を重ね來れるは寔に其の着想に敬服の外ないのであります、私が着任以來特に此の點を重視し從來の施設に更に一步を進め、之を強調しつつある所以も、亦此の意味に外ならないのであります、殊に最近異常の豊作と農産物價の低落とに因り、一層の施設對策を要するものがあり、更に聯盟

0265

脱退後に於ける帝国内外の情勢と朝鮮の經濟的、地理的特種事情とは、本施設に格段の重大性を加へ且急速度を以て其の實施を要するに至つた次第であります。

○農村救済に關する對策

然らば如何にして此の窮狀を匡救打開すべきかの方策に付案するに、凡そ二つの方策がある、即ち其の一つは土木、砂防等の勞銀撒布に依る政府の救済施設がそれであり、もう一つは所謂自力に依る農家經濟立直しの根本方策である、前者は素より必要であるが其の効果は一時的に農村に活を入れるやうなもので、恰も重病人に對するカ^ンフル注射と同様で時を経て更に第二、第三の^カンフル注射を要するのであります、斯の如きことは公債を以て財源とする政府の財政政策の見地からしても永續せしむべき性質のものではないのであります。

斯く觀察しますると農村を救ひ農村を根強く起ち上らしむる唯一無二の根本方策は、後者の自力更生の運動、即ち現に實行中の農村振興運動より他に求むべき方法はないのであります。

○農村振興運動の實態

そこで此の運動は第一に農村今日の窮乏の因を成して居る點に遡つて其の根本方策を樹てねばならぬのである、それには先づ農村の特色と、農業の本質と、農村人の理想信念人生觀の三つの重點に立ち歸つて、農村人は勿論、農村の指導に當る一切の關係者を擧げて之を自覺せしめねばならぬことであります、此の自覺を促進する方法が即ち精神作興、民風改善の教化施設であり、之を基調としたる生活改良、營農改善の經濟施設が農村の更生を具顯することとなるのであります、此の物心一如の運動を明確に示したるものが即ち客年三月の政務總監通牒でありまして、此の通牒の精神を基調とし且其の具體的實行方策として各位が過去一年間心血を注いで終始した更生指導部落の農家更生計畫の遂行であるのであります、斯くて金錢萬能、都市文化至上の思想の重壓から農村を救ひ出して再び實質なる農村に甦らせ、農村の人々をして農業に立脚したる健全幸福なる生活を營ましむることが出来るのであります。

○農家更生計畫の目標及要點

農家更生計畫に付ては別に農林局長其の他の職員より委曲を盡して御説明致す筈であるから自分は茲に重複を避けて單に其の要點のみに止めますが、計畫に於て目標とする所は先づ以て各戸の不足食糧の充實、負債の償還、現金收支の均衡の三點、即ち之を平く謂へば春窮退治、借金退治、借金豫防の三點を更生要點とし、自給自足と餘剩勞力の利用消化を鐵則とし、各戸の事情に即して必要なる施設を有機的に綜合統制するの簡便な方法を採用して民度民力に相應せしめたのであります。

謂はば從來の一齊指導を各戸指導に改めたのであります、將來此の施設を擴充徹底して遂には朝鮮より永久完全に春窮と謂ふ文字、借金と謂ふ文字をなくして先づ生活の安定を圖らねばならぬと考へて居るのであります、夫れの實現の曉には更に計畫を第二次的に進めて生活の向上を圖り、而して出來得る限り無産者を有産者たらしむる所迄漕ぎ着けなければならぬのであります、之は將來に持つ私の滿腔の理想であり又切實なる希望であります。

○世界大勢の動向と帝國及朝鮮の地位並に 本運動實行の難易

繼て世界の大勢を見るに現在世界の内にて強國と名の付く諸邦を始め其の他の諸小國の

多くは世界大戦の慘憺たる影響禍害を受けて戦債又は賠償金の負擔に苦しまられて物資購買の能力は極度に萎縮して居る、又戦争の要求に適應する爲過度に生産設備を擴張し將又生産を機械化したりし、結果として生産過剰の弊に陥り、之が救済策として生産を制限すれば失業者續出するに申す有様にして非常なる經濟難に陥り資本主義の餘弊たる貧富の懸隔の度合は愈大となり延ひて思想上にも變調を呈して所謂今や極端なる經濟難、思想難に類して自己自國の生存の爲に懊惱煩悶の最中に在るに申して宜しいのであります、而も其等諸國の政治の中心は薄弱にして時に愚劣なる民論にも迎合追隨せざるべからざる國柄が少くないのであります。

斯様な世界の動きの間に處して帝國自體の姿を見ましたならば如何でせう大戦の持ち來むたる戦債もなければ無論賠償金もなく、將又資本主義經濟を採り入れましたのも歐米諸國に比すれば日尙淺きことでありますから、其餘弊を蒙ることも少く貧富の懸隔の如きも何れかご申せば歐米諸國の如く極端なる程度には達して居らぬのであります、夫れに加ふるに政治の中心は萬世に涉り確固不動である特長を有する、時に輔弼に其の人を得ざるが爲にテキハキご仕事が進まず國歩の停頓したることなきにしもあらずでありますけれども、夫れはほんの一時の間歇的の現象でありまして永年を通して大觀致しますれば中心は

堅實無比、暗遷黙移の間に國運は不斷に進展し時に内外の紛擾強壓ありしも之れを切り抜け夫れを凌駕して一難を加ふる毎に國歩は更に堅實を加へ、世界に其の存在すらも認められざりし一貧弱國より世界三大強國の班列するに至りし如く誠に結構此の上なき國柄を申し得るのであります、即ち吾人は世界列國の間に伍して斯く帝國自己の著しく惠れたる地位、優越なる立場を認知し得るのであります、世界共通に所謂非常時に當面して居りますが其の中でも日本は比較的乗り切り易い境遇に置かれて居るのでありますから、非常時の呼聲に萎縮せず辟易せず大いに努力して奮闘さへすれば他の列國よりも一步否數歩御先に物心兩方面の樂土樂園を建設し得るの天恵に浴して居るのである、世界に於ける帝國の地位を今日よりも遙に優越せる地位に築き上げ得る立場にあるのであります。

・帝國全體が世界の中に於て右に述べたるが如き有利の境遇に在るのであるが朝鮮自體は又帝國内に於て如何なる立場にあるか？ 朝鮮自己の姿は如何であるかを觀察致しまするに、夫れ自體は帝國内に於て又最も惠れたる地位にありと申さねばなりません、公課其の他の民衆の負擔は内地の夫れに比すれば著しく輕微であります、資本主義の浸入も日淺きことでもありますから貧富懸隔の程度も内地の夫れに比すれば些少であります、勿論今日では尙富の程度も物資の生産高も生活の状態も内地の夫れに比すれば凡て格段に低級ではあ

りますけれども此の程度の低いと言ふことは何を意味するかと申せば、取りも直さず改良増殖を圖るべき餘裕の尙大に存すること、換言すれば今後に進歩の餘地が大に残されあることを意味するのであります、加之ならず朝鮮に於ては海陸を通じて内地に於て生産し得る丈のものは何んでも産出し得るのみならず、内地に於て生産し得ず、求むることの出来難い棉花、輕金屬の原料、重要礦物等も豊富に産出し得るの特色を有して居り、緬羊飼育の如きも氣候風土及國民性に最適して居ります、其の他一昨年來更新せられたる日滿の新關係に就ては朝鮮は地理的形勝の地位を占めて人的に彼の地への進出容易の便もあれば、彼の地の原料及彼の地への輸出品の加工製造場としても豊富且低廉なる石炭、水力、勞働力の利用と相俟つて頗る有望であります、即ち朝鮮自體は帝國內に於て又殊に恵れたる立場にあり、將來大に伸び且進み得るの餘裕が綽々として存し前途は光明と希望に充てる土地柄であるのであります、茲に御互が此の結構なる境遇と立場を自覺し認識して大に工夫を積み努力を重ねましたならば誠に働き甲斐のある美はしき結果を持ち來して、間もなく内地に追ひ付否御互の働きの度合によりては内地に一步先驅けして樂土を構成することも敢て至難ならずと存するのであります。

斯る恵まれたる環境利用の第一着手として行はるる朝鮮の農村振興運動も甘く琴線に觸

れたる施設を採れば如土の天恵と相俟ちて左まで困難ではないと思ひます、元來朝鮮農家の窮乏の程度は割合に單純であつて食糧の不足にしても年に二、三石程度で、負債の額にしても一戸當り百圓見當で至つて僅少であるばかりでなく未だ自給自足經濟の風潮も相當遺されてあり、而も少からざる餘剩勞力を餘して居るのであるから、之を利用消化し之を經濟化するに於ては農作物の如き忽ち幾割かの增收も出來、副業的收入も増加して食糧の充實も負債の償還も與ふるに若干の年月を以てすれば決して困難ではないのであります、之は從來の普通學校卒業生の指導施設の効果が雄辯に立證して餘りあるのであります、要は農村大衆の自覺と其の間に當る官公吏識者の指導如何に在ると信じて居ります。

○指導上留意を要する當面の經濟事情

昨八年は年尾に近づくに従ひ漸次に所謂景氣が好くなり半島經濟界未曾有の活況を呈して居る、乍併夫れは公債及通貨の増發に基く貨幣價值の低落、換言すれば爲替安に基く對外輸出増加と物價の騰貴によりて生じたる一時的、變體的の景氣に外ならぬ、爲替とても他邦の政策若くは其の貨幣價值の變動によりて時に高低を生じ、又各國共に今や關稅障壁を高めて他國製品の輸入防遏に勉めて居るから現時の對外輸出の好況が何時迄、何れの地

方に繼續するかは他動的性質のものであるから確たる見當が付かぬ、夫れに加ふるに物價の騰貴は追々國內品の生産費の増加を來すことになるから、今日の好條件が何時迄續け得るか？必ずや餘り遠からざる將來に於て行詰りを生ずるの恐あることは素人ながらも畧々、推想し得る、即ち今日御互の眼前に映じて居る好景氣なるものは本調子ではなく、未だ所謂浮き調子の域を脱して居らぬ、眞の好景氣は實に國民の實力が整備充溢して自發的に購買力が旺盛になり、其處に始めて求め得らるるものである、故に民衆が現に當面し眼前に見へつつある浮薄なる現象に眩惑せられて上ツ調子になる事なく飽迄も冷靜に、眞摯に、堅實に、努力と節約と貯蓄と而して夫れの利用に精進して更生の功を一簣に缺くが如き羽目に陥らざる様精々注意を拂はれて指導の適切を期せられたいのであります。

○運動の強化

本運動を容易且效果的ならしめんには更に一面に於て中心人物の養成、高利舊債の整理、負擔の軽減、小作立法等尙幾多の施設を併行措置することの極めて緊要なることは論を俟たざる所でありまして其の内中堅青年の養成と高利舊債の借替に付ては各道共現に折角實施中でありますから將來本運動の進展と共に益夫れを擴充せらるるやう此の機會に於て各

位の御盡力を御願ひして置きます。

尙農村負擔の輕減に付ては近く實現を豫期する税制の整理に依り、又小作立法に付ては一日も速に其の發布を見るやうに共に目下本府に於て折角其の實現に努めて居るのであります。但、啻茲に一言付け加へて各位の留意を願ふ點があります。夫れは外でもありませんが此等の施設は素より大切な而も必要なことであります。一にも二にもやれ「小作立法」やれ「負債整理」と謂つたやうに他力本願的に陥ることのないやうに、即ち此等の施設を本運動に織込んで既定計畫の遂行を一層強化するやうに心懸けて戴きたいのであります。蛇足の様にも思ひますが爲念付け加へて置きます。

○指導の要訣

然るに現下朝鮮の農民大多數は未だ一般に幼稚にして其の指導は相當困難であります。が、一面純朴であつて官の指導に従順でありますから此の特長を活かし、之を利用し、民衆の指導には常に「能く見せ」「能く聞かせ」「能く考へさせ」「能く導き」「能く働かす」やうに世話してやり、又斯くすることに依つて此等民衆をして漸次に覺醒せしめ、進んで「自ら聞き」「自ら見」「自ら考へ」「自ら律し」「自ら治め」「自ら勵み」「自ら働く」と謂ふや

うに、漸次之を自治、自律、自勵に誘導し、此の呼吸を以て一歩一歩物心一如の生活に馴致し、個人としての人生觀の把持に、將又社會人としての自治的訓練の完成に指導の周到を期せなければならぬのであります。

○指導關係者の責任と其の和合

斯く觀じ來れば指導關係者の一言一行は悉く農村に反映することとなり、其の課せられたる責任は實に重且大なりと謂はなければならぬのであります、而も今日の問題は議論や批評の時代は過ぎ去りて一に懸つて實行の如何にあるのであります、之には「人の和と力」が最も重要な點であります、地方農村振興委員會を活用することも、廳内の聯絡統制を圖ることも、指導機關相互の聯絡協調も、官民の一致協力も、擧げて「人の和と力」にあるのであります、従つて苟も本施設に關係する者は其の階級と所屬の如何に拘らず、一切を超越して大局的觀察に活き、飽くまで本運動の使徒たるの覺悟を以て、互に相和し、相扶けて最大最上の奉公を覺悟せねばならぬのであります。

○結 論

0275

現に各位に對して大努力を要望し居る所の地方振興、自力更生の仕事は名實共に全鮮總動員、即ち、あらゆる公私の機關、總ての階級、全部の民衆が協力一致して朝鮮の更生、帝國興隆の爲に最大能率を發揮して邁進しつつある所にして、半島に於ける最高であり、又最重要の事業である、之れが完成の暁には内鮮の融和も、悪思想の是正も、勞資の協調も、陋習の打破も、經濟の更生も、生活の安定乃至は向上も、地方自治の發達等も皆此の雰圍氣裡に醗酵せられ、覆育せられて出來上り得るのであります、所謂一藥以て萬病を醫し得ると申すが如き頗る微妙なる意味を有して居る、其の呼吸を豫め十分に體得せられて、然る後に民衆啓導の任に邁往せられ度、今日動もすれば尙本事業を半島統治の局部的、一時的の仕事であり、時日の經過又は當路者の交迭等によりて盛衰消長をも來すべきもの様に、甚だ軽く且つ粗笨に考へて居る向も所々にあるやに聞き及んで居るが、夫れは實に思はざるの甚だしきものであります、余は此處に斷言して置きます、即ち此の大事業に對する一般の態度が當局の交迭や歲月の經過によりて冷熱や消長を生じ、時に停頓することがありはせぬかこの疑念を尙持つて居る様では、朝鮮は永久に浮ばれ難い、永遠に起ち上る事は六ヶ敷くして、東亞の天地は夫れが爲に絶へず明朗快活を缺き、永劫に惡氣流を以て包まれたるであろうと斯く憂ふるものであります、各位は此の邊の消息を十分に念頭に

置きて仕事に取り掛らるることが肝要であります。

本會合の機會に於て篤と十二分に腹藏なき意見を開陳し熟議を重ねられ、今後の局面に對して善處せられんことを切望して私の話は終りと致します、どうか確かり御遣り下さい。